



- 1 通所:フェスタウィーク
- 2 東大和フェスタ
- 3 リハ科「制作展」
事務連絡
- 4 マイ・ワールド
人事異動



通所 フェスタウィーク



通所係 保育士 宇都 清香

2022年10月3日(月)～7日(金)の一週間、フェスタウィークを開催しました。日替わりで3つのアトラクションを実施し、普段とは異なる雰囲気を利用者の皆さんの目はキラキラと輝いていました。

月曜日は「ヨーヨー釣り」を開催。竿を使って勢いよく「えい!」っと釣ると、周囲から「すごい!」と歓声が上がリ、満面の笑みを浮かべる利用者の方が多くいました。

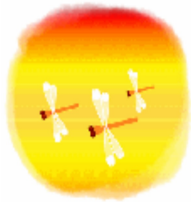
火曜日と金曜日は、3病棟企画の「パネルめくりゲーム」を貸していただき、ビンゴを使って出た数のパネルを順番に捲っていきました。ご自分で好きな番号を伝えることのできる方は、「何番にしよう…?」と悩む時間がまた貴重でした。景品のシールも元通所職員のイラスト入りで、連絡帳やポーチ等に貼って楽しまれている方もいました。完成したパネルの写真は、とある病棟の看護師長。「知ってる!」と頷いたり、笑ったりと反応は様々でした。

水曜日と木曜日は、4病棟企画の「ミノマリオ」を貸していただき、マリオの世界観を通所でも楽しみました。マリオに出てくる「クッパやヨッシー、ピーチ姫…」などと一緒に記念写真!立体的で臨場感のある作品に皆さん驚いていました。どうやって作ったのか、職員も一緒になって作品に見惚れていました!

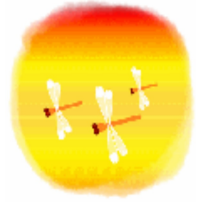
病棟企画のアトラクションを通所でも使用でき、東大和フェスタを感じる一週間となりました。通所での活動時間は限られていますが、非日常を感じれる良い機会となったことと思います。

病棟の皆さん、素敵なゲームと作品を提供していただき、ありがとうございました!





東大和フェスタ



第3病棟 生活支援科主査 加藤一久

東大和フェスタ2022を終えて

今年の東大和フェスタは10月1日(土)に開催されました。最近、新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にはありましたが、感染対策を緩めることができない状況ではないと判断し、やむを得ず、ご家族の皆様には参加を遠慮していただくことになりました。規模としては昨年と同様で縮小し、室内のみでの企画でしたが、利用者の皆さんは2つのアトラクションと病棟でのゲームを楽しむことができ、たくさんの笑顔が見られました。

さて、フェスタ当日のアトラクションを紹介いたします。

◎プレイルームでは、“スタコラスイッチ”のアトラクションが行われていました。鈴が先に付いた棒を持って、鈴を鳴らさないように5つのゾーンを回っていきました。最後の「クルクルノキャッチ」ではくるくる回転しながら落ちてくる物をキャッチし、その数を競い、1位-2病棟、2位-1・3病棟、3位-4病棟でしたが、たいへん盛り上がっていました。



◎プール前では、“ヨンテンドー・ミノマリオ”という写真館が行われていました。キャラクターは目を見張るような作りとなっていました。ご自分で好きなキャラクターや場所で、本当の写真館と見間違えるような写真撮影セットを前に、思い出の写真が撮れました。

◎病棟のゲームは、ビンゴマシーンをまわし、出た数字のパネルをめくっていくゲームでした。病棟から出られない方も、利用者全員が参加できました。参加者には特製シールがプレゼントされました。

フェスタが終わると、紅葉の季節、そして段々と寒くなり冬を迎えます。これからの季節は体調を整え、コロナ、風邪、インフルエンザなどに負けずに過ごしていただきたいと思います。





制作展 2022 リハビリテーション科



リハビリテーション科 作業療法士 主任 田中豊明

センターの秋を彩る「制作展」が11月下旬まで開催されています。今年絵本「だるまちゃん」を長期利用者さん一人ひとりがアレンジして展示しました。その他「書写」「ドライフラワー」、カラフルな「紙版画」やオーストラリア先住民が発祥の「アボリジナルアート」を絵の具やクレヨンで再現、思わず「おいしそう～」とつぶやいてしまう紙粘土で作った「お団子」にインスタ映えする「サンドウィッチ」などどれもこれも個性豊かな作品が展示されています。



外来の患者様やご家族、職員が作品を見て「すごいね」「かわいい～」と作品を楽しんでいる姿によく出会います。

秋のひと時を利用者さんの作品をみて、ほっこりした気分になってくださいね。



令和3年度 指定管理者管理運営状況評価結果

当センターは、社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会が、東京都から指定管理者として指定を受けて運営しています。指定管理者の管理運営状況については、東京都の指定管理者評価制度により、外部委員で構成される評価委員会において毎年評価を受けています。令和3年度の指定管理者管理運営状況の評価結果は以下のとおりです。

施設名: 東京都立東大和療育センター 施設種別: 医療型障害児入所施設・療養介護事業所 総合評価: B

評価内容: 当該施設に必要な管理運営業務を概ね適切に遂行している。

<特に評価すべき点>

- 個別訓練の実施により、重症心身障害である利用者のモチベーションを引き出し、グループ活動等を通じて、周囲の人との関係づくりができるよう働きかけを行っている。
- 感染予防対策委員会のほか感染制御チームを設置し、定期的に館内を巡回するなど、感染防止対策に取り組んでいる。
- 午前と午後の両方に療育活動の時間を設け、利用者へ、感覚刺激や音楽活動など、様々な活動を提供している。

<要改善事項等>

- 委託経費を二重に支払う事案が発生した。二重に支払った委託料は当該年度内に全額返還されている。



思うこと

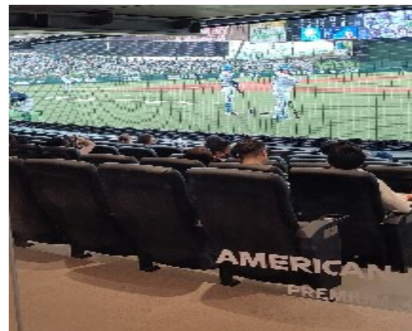
感じること

伝えたいこと

Vol. 23

薬剤検査科 薬剤室主査 飯塚 憲太

中学・高校では朝から夜までバスケに熱中し、体を鍛えていましたが、徐々に運動する機会も減り、最近では自分で動かなくていい野球観戦にはまっています。きっかけは数年前、子供が埼玉西武ライオンズを応援するようになったことです。地元の球団であるライオンズは私も大好きだったので球場へ足を運ぶようになりました。はじめのうちは子供についていく感じだったのですが、今では息子は一切球場へはいかず、なぜか妻が一番熱心になりました。おかげで球場の雰囲気やグルメ、選手の表情など息子と観戦していた時とは違う視点で野球を見るようになりました。プレーより人を見るのが好きな妻は2軍戦にまで足を運ぶ状況です。華やかな1軍の試合とは違ったのんびりとした球場で、ひたむきに上を目指す選手を見るのもまた面白いものです。コロナ禍でなかなか観戦することもできなかったのですが、ようやく以前の西武ドームに戻りつつあります。リニューアルした球場は依然と違う楽しみ方も増えました。皆さんも一度足を運んでみてください。監督も変わり、「来シーズンこそ日本一を」と願っています。



編集後記

暑い日や寒い日が続きその日の服装に困るような日々も落ち着いてきて、秋らしい気候になってきました。秋と言えば、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋などたくさんあります。私自身、秋だからこれをやろうと思ってもなかなか重い腰が上がらないことが多いですが、今年は趣味を見つける秋なんてのもよいかなと思っています。新しい発見があるかもしれないと思うとワクワクしますね！

もうすぐ冬が来そうです。鍋がおいしい季節です。鍋をしながらお酒を飲むのも今から楽しみです！食欲は秋だけでなく年中あるなあなんて感じています。同時に運動もしなければ！とも思っています。(S.K)



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風 第108号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 令和4年11月15日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘3-44-10

Tel 042-567-0222